

平成 28 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623	
法人名	医療法人 芙蓉会	
事業所名	グループホーム芙蓉	
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1	
自己評価作成日	平成28年 9月 9日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成28年9月23日(金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑・金川の森に隣接していて、春には桃と桜の花のコラボレーション、夏は新緑、秋には紅葉が楽しめる、自然を満喫できるグループホームです。自然の中にありながら、徒歩の範囲にショッピングセンターやホームセンターがあり、散歩がてら買い物に行くことができる環境にあります。そして、当グループホームの食事は一から手作りですので、一日中食事を作る音や匂いを感じることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、平屋建てで事務所を挟んだ対面の2ユニットの事業所である。近隣には金川の森公園、桃畑、大型のショッピングセンター、地元物産店等がある。公園に訪れる多くの散歩する人達との交流や、どんぐり拾い等自然と触れ合える場所がある。各ユニットの共有空間は、天井が高く日当たりも良くホールから見える広い中庭は、自由に行き来が出来る様になっている。また中庭にはベンチを置いて日光浴ができ、災害時の避難場所にもなる。各ユニット間の事務所の中を通り自由に行き来している利用者もいる。法人の事務長は、地域の公民館等に出向き、地域の人達に事業所の説明する機会を設け理解、協力体制を築いている。広い敷地をフェンスで囲い公園に抜ける扉の管理が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム芙蓉**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、事務所に掲示し職員全員共有している。	運営理念は、事務所に掲示し職員全員共有している。	理念は事務所の壁に掲示してある。月1回の職員会議で理念に沿った介護が提供できる様に共有している。また、毎日のケアの中で入居者が、「地域の方達との触れ合いの中で楽しく暮らせるよう」に、理念に基づいた入居者の立場に立った支援の中で心豊かに生活を送っている。	運営理念を、独自に作り上げて利用者・家族、職員の目に留まる場面に掲示し、日々のサービスの提供場面を振りかえり、その理念がケアに反映されていくよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催。歌の先生は元入居者のお嫁さんで、退居後も継続して来てくださっている。市内の保育園児には、行事の際は協力していただいている。自治会内に職員が住んでいるので、地域の情報が得られている。	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催。歌の先生は元入居者のお嫁さんで、退居後も継続して来てくださっている。市内の保育園児には、行事の際は協力していただいている。自治会内に職員が住んでいるので、地域の情報が得られている。	管理者が地域の公民館に向向き、地域の方達に事業所の説明をし理解・協力をしてもらっている。区長、ボランティアの参加協力がある。地域と協力協定を結んでいる。また地域の幼稚園児の来所時の創作品が玄関に飾られている。中学生・高校生の夏休み介護体験で2~4名が来所し、触れ合いの場がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職業体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるよう努めている。	中学生・高校生の職業体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催している。市の職員・民生委員・入居者家族・入居者代表に出席していただき、事業報告や行事の写真を見ていただき、意見や感想を今後のサービスに活かせるようにしている。	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催している。市の職員・民生委員・入居者家族・入居者代表に出席していただき、事業報告や行事の写真を見ていただき、意見や感想を今後のサービスに活かせるようにしている。	運営推進会議は、利用者、家族、市の職員、民生委員、管理者、法人の職員の参加で行われている。食堂のテーブルを囲み事業報告、現在の利用者の状況報告等行う。参加者から聞き状況等の質問・意見が出ている。利用者の入居確保については市に協力の働き掛けを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の代表の方に、2ヶ月に一回の運営推進会議に出席していただいている。市で開催している連絡協議会には、極力参加に努めている。その他わからないことなど、連絡をとり相談にのっていただいている。	市の代表の方に、2ヶ月に一回の運営推進会議に出席していただいている。市で開催している連絡協議会には、極力参加に努めている。その他わからないことなど、連絡をとり相談にのっていただいている。	2ヶ月に1回の運営推進会議に市から介護保険課の職員2名が参加している。また市開催の連絡協議会に参加して他の事業所との連絡を取っている。空き情報、他施設見学などの要望は見学会を実施している。入居時の住所地の件等の対応等、市役所と常時連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員全員に配布している。玄関は自動施錠であり、自由に入出入りできないが、一緒に出られるよう対応している。中庭は自由解放している。	身体拘束マニュアルを職員全員に配布している。玄関は自動施錠であり、自由に入出入りできないが、一緒に出られるよう対応している。中庭は自由解放している。	バイパスが近く交通量が激しい事、不審者等の事も含め、玄関の閉鎖は自由では無いが、600坪の広い中庭は自由に散策出来る様になっている。広い敷地内はフェンスで囲われている。職員会議等でスピーチロックについて話し合っている。スピーチロックがあった場合管理者が直接その都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の連絡協議会の研修などに参加し学んでいる。理解を深め活用できるよう努めている。	市の連絡協議会の研修などに参加し学んでいる。理解を深め活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時面談や見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基に、解りやすく説明している。不明な点は、随時話し合う機会を設けている。	入居時面談や見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基に、解りやすく説明している。不明な点は、随時話し合う機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時には極力声掛けをし、ご意見を伺うようにしている。	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時には極力声掛けをし、ご意見を伺うようにしている。	運営推進委員会で改善点や苦情に対する意見は出ていないが、家族対応時や面接時に意見が出せるよう様に努めている。また、御意見箱を事務所入り口に設置、アンケート表を置いて、家族から電話での返信などは、事務長に報告して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	月一回、職員会議にて、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	職員会議や日常的に意見・要望を聞く機会がある。風呂場の改善、脱衣所のエアコン取り付け、洗濯場の改築など、普段の支援の中で職員から出された提案・要望は聞き、より良い運営に反映されている。また「職員同士が楽しむ食事会」の要望は実施している。中庭の「大きい樹について」の環境改善の要望は現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務の希望を極力聞き入れ、無理なく勤務できるような配慮をしている。	職員の勤務の希望を極力聞き入れ、無理なく勤務できるような配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内の研修会に月一度参加している。更に内部研修として活かすように努めている。	同法人内の研修会に月一度参加している。更に内部研修として活かすように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会や研修会等で、情報交換を行っている。研修会の案内状は常に掲示し、希望の研修に参加できるようにしている。	市の連絡協議会や研修会等で、情報交換を行っている。研修会の案内状は常に掲示し、希望の研修に参加できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に必ずご本人と面談している。現在暮らしている場所(自宅・病院・施設)に向き、ご本人やお世話をされている方からお話を伺うようにしている。	ご入居前に必ずご本人と面談している。現在暮らしている場所(自宅・病院・施設)に向き、ご本人やお世話をされている方からお話を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族と面談し、認知症発症の経過や、不安に思っていること、困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。	ご入居前にご家族と面談し、認知症発症の経過や、不安に思っていること、困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の情報と現状とのギャップについては、すぐに修正できるように努めている。	入居以前の情報と現状とのギャップについては、すぐに修正できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰かであったり、会社の同僚であったり、認識がまちまちなので、個々に寄り添い接している。	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰かであったり、会社の同僚であったり、認識がまちまちなので、個々に寄り添い接している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族とも連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族とも連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、行きつけだった美容院やお墓参りに出掛けている。ご家族以外にも、近所の方・友人・親戚等来訪できる方には声をかけている。個別に出掛けた際は、入居者の暮らしていた家の周辺や馴染みの場所へお連れするなどの支援もしている。	家族の協力で、行きつけだった美容院やお墓参りに出掛けている。ご家族以外にも、近所の方・友人・親戚等来訪できる方には声をかけている。個別に出掛けた際は、入居者の暮らしていた家の周辺や馴染みの場所へお連れするなどの支援もしている。	利用者の暮らしていた近所の方に来訪してもらいお茶会等を継続的に設けている。美容院は利用者の要望で毎月来所。ある利用者は今まで行き慣れた外食に友人、知人、時には職員が付き添い週1回程度出掛けている。馴染みの場所や買い物等も利用者も出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、心配事があれば一緒に悩んだり、食事の場面では、おかわりの促しや、口をふいてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。	入居者同士、心配事があれば一緒に悩んだり、食事の場面では、おかわりの促しや、口をふいてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居されて方については面会し、経過を見守っている。入院にて退居された方は、病状が改善し戻れる状態ならば優先して受け入れ、戻れない場合でも様々な情報を提供して、困らないように支援している。	他施設に転居されて方については面会し、経過を見守っている。入院にて退居された方は、病状が改善し戻れる状態ならば優先して受け入れ、戻れない場合でも様々な情報を提供して、困らないように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しても、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しても、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	本人の意向をくみ取り、寄り添った対応を心がけている。職員、知人と外食へ出掛けたり、温泉を楽しみにしている利用者の要望に答えたりしている。意思疎通の困難な利用者には、表情や目線、しぐさから思いをくみ取り、陽に当たったり、花を見る機会を多く持って気分転換をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、生活歴や習慣の聞き取りをし、その頃の生活により近づくことができるよう努めている。	ご本人やご家族から、生活歴や習慣の聞き取りをし、その頃の生活により近づくことができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録を日内変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方の場合、記録だけではなく、引継ぎ時にしっかり申し送りをするようにしている。	観察記録を日内変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方の場合、記録だけではなく、引継ぎ時にしっかり申し送りをするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時にはご本人・ご家族から今後の意向を伺い、介護保険の更新時及び変化があった時にアセスメントを行っている。モニタリングは、観察記録・申し送りノート・職員の雑談なども参考にしている。	計画作成時にはご本人・ご家族から今後の意向を伺い、介護保険の更新時及び変化があった時にアセスメントを行っている。モニタリングは、観察記録・申し送りノート・職員の雑談なども参考にしている。	入居時、以前の関係から今迄どんな暮らしをしていたのか、現地に向いて生活の様子をアセスメントし、仮のプランを作成する。介護職の継続記録を参考に言葉での連絡、報告等から本プランを作成している。通常は1年間で見直し作成し、モニタリングは短期6ヶ月、長期1年、変化があった場合は随時プランを見直し、現状に合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気付いたことを記録している。即、共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。	観察記録に日々の様子や気付いたことを記録している。即、共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員の紹介や職員の知人など、ボランティアの方を行事の時に迎え、入居者が楽しめるように努めている。	地域民生委員の紹介や職員の知人など、ボランティアの方を行事の時に迎え、入居者が楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者は月2回の訪問診療を受けている。定期の訪問以外でも、必要時には電話連絡や臨時訪問もして下さる。入居前からのかかりつけがあり、そちらを希望される場合は継続している。必要に応じて専門医への受診の援助を行っている。	殆どの入居者は月2回の訪問診療を受けている。定期の訪問以外でも、必要時には電話連絡や臨時訪問もして下さる。入居前からのかかりつけがあり、そちらを希望される場合は継続している。必要に応じて専門医への受診の援助を行っている。	月2回、往診医で9割の方が受診している。残りの1割は基本的に家族がかかりつけ医と対応している。情報は書面で持参、受診結果は家族より受け取り関係者が共有し、記録を残している。家族の希望で歯科医や眼科医の来所、また訪問の医師と個人契約をして訪問看護師の来所もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問診療とは別の週に訪問看護がある。その際、アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は看護師から医師に伝えてもらっている。	月2回、訪問診療とは別の週に訪問看護がある。その際、アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は看護師から医師に伝えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて身体状況や病気の経過など、情報提供を行っている。入院中は見舞いに行き、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。	入院時は介護サマリーにて身体状況や病気の経過など、情報提供を行っている。入院中は見舞いに行き、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医と一緒に、今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もあり、看取りをするケースもある。看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関わる指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医と一緒に、今後の方針について話し合う。延命を希望しないご家族もあり、看取りをするケースもある。看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	重度化や看取りについては家族、訪問医、ケアマネージャー、管理者、事務長と方針を話し合い、家族の意向を職員に伝えている。今まで医師、訪問看護師、管理者、職員の連携で3名の看取りを行ったことがある。現状、看取りのマニュアルは出来ていないが、今後想定される重度化や看取りについての話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置し、全職員講習を受けている。	年に一度、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置し、全職員講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜動想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内や利用者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年に二度、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜動想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内や利用者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年2回の防災訓練は、夜間を想定して各ユニットごと夜勤職員1名(東館は夜勤専門者2名を含む3名、西館は夜勤専門者1名を含む5名)で対応。その都度記録を取り対応の検討を行っている。運営推進会議に消防団の来所を依頼して事業所の様子を見学、避難場所の確認等も行われ連携、協力を取っている。通報警報が鳴った時は自動で玄関の施錠が解除される。	夜間専門勤務職員以外の職員に対しても日中・夜間を想定した避難訓練を行い、訓練後の記録を取り職員全員での検討会を設け共有して不安の解消につなげた。また、防災頭巾・ヘルメット等の備品の設置等も望む。家族から夜間の安全管理、防災に対する事業所の考えを問われているので早い時点での説明を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者へ合った、馴染みやすい言葉かけで対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	個々の利用者へ合った、馴染みやすい言葉かけで対応している。長期関係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	利用者の気持ちに添い、希望時に職員と一緒に歩いたり、外食に行きたい利用者連れて行くなど、一人一人の利用者に合った対応をしている。馴染みやすい声掛けを心掛け、排泄時、入浴時、同姓介護に配慮している。書類は事務所で管理し個人ファイル等情報の取り扱いには遵守している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好むこと好まないことの把握に努め支援している。	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好むこと好まないことの把握に努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間変更し、無理強いはいないように配慮している。	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間変更し、無理強いはいないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。テーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むきを職員と一緒にしている。時折、白玉団子や草餅作りを取り入れて、楽しんでいる。	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。テーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むきを職員と一緒にしている。時折、白玉団子や草餅作りを取り入れて、楽しんでいる。	法人の管理栄養士が献立を作成し、管理者が利用者の希望・意向を取り入れて見直し、季節感を取り入れた食材でメニューを決めている。各ユニットの職員が調理し、利用者は皮むきやテーブル拭き、食後の片づけ、洗い物等を職員の支援で行なっている。箸・茶碗は個人で準備し使用している。職員は自弁当を利用者と同席で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士の献立を基に、メニューを決めている。入居者の好みや障害に合わせた形態で食事を提供している。	同法人の管理栄養士の献立を基に、メニューを決めている。入居者の好みや障害に合わせた形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助が必要な方を把握して支援している。義歯の手入れが不十分な方はこちらで管理している。	声掛け・見守り・介助が必要な方を把握して支援している。義歯の手入れが不十分な方はこちらで管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導などの個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方も、排尿誘導にてオムツが外せるような支援をしている。	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導などの個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方も、排尿誘導にてオムツが外せるような支援をしている。	排泄は個人観察記録に記入し、個々の排泄パターンを把握し対応している。退院時オムツ使用の方が、リハビリパンツ・パット使用からトイレで排泄できる様になったり、夜間のみリハビリパンツになった利用者もいる。現状布パンツとリハビリパンツを使用している利用者が主で、日々の様子から状態に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	週三回、通常は午後の時間帯を入浴時間としている。入浴嫌いで決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいといったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。体調や希望にも極力対応している。	週三回、通常は午後の時間帯を入浴時間としている。入浴嫌いで決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいといったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。体調や希望にも極力対応している。	月曜日から土曜日まで毎日入浴は可能で、通常は週3回の予定で午後から入浴している。本人の希望で午前中に入る利用者もいる。入浴拒否の利用者には言葉掛けを工夫し対応している。入浴剤は毎日使用、保湿度やかゆみ止め等、個人に合わせて塗布している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ユニット名(西館) ベッドや寝具は、基本レンタルをしているが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。	ユニット名(東館) ベッドや寝具は、基本レンタルをしているが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付け加えている。	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付け加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を支援している。喫煙・飲酒など嗜好品もできるだけ考慮している。	季節ごとの制作や、行事への参加を支援している。喫煙・飲酒など嗜好品もできるだけ考慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に二回程度、職員と入居者2:2での外出外出援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮し、行き先を決定している。近隣の公園へは随時出掛けている。	年に二回程度、職員と入居者2:2での外出外出援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮し、行き先を決定している。近隣の公園へは随時出掛けている。	1人1人の希望に添った対応を日常的に行っている。自宅近くに行く、公園の散歩、近隣のペットショップや花を見に行くなど楽しんでいる。利用者の希望で小グループで外食(回転ずし・うなぎ・ファミリーレストラン等)したり、紅葉を見に河口湖等に職員と一緒に出掛けたりしている。家族が自宅に連れて行く利用者もいる。地域の方達と協力体制が出来る様に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理している方はいる。能力に応じて、支払もしている。	小遣いを管理している方はいる。能力に応じて、支払もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたいと希望する方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。	電話をかけたたいと希望する方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビを囲んで大きいソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来し易く、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	居間にはテレビを囲んで大きいソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来し易く、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	各ユニットの玄関には造花や園児が作った作品、コアラ・絵が飾ってある。2部屋に1か所車椅子で入れるトイレがある。共有空間の広いホールは高い天窓で日当たりも良い。その一角に大勢座れるソファとテレビが設置され、広い中庭を眺めることが出来る。別荘風建物で2ユニットが事務所を挟んで対面になっていて、自由に行き来が出来て穏やかな居場所の工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同志は居間や食堂を利用し過ごしている。独りになりたい方は居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。	気の合う同志は居間や食堂を利用し過ごしている。独りになりたい方は居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらっている。こたつを立てて自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている方もいる。	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらっている。こたつを立てて自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている方もいる。	部屋の入り口には花の名前と個人名が貼ってある。ベッド、カーテン、エアコン、押入れは備え付けである。利用者は好みでテレビやタンス、机等を設置して、家族写真や亡くなった奥様の写真、装飾品、公園で拾ってきたどんぐり等飾られて、本人が心地よく過ごせる馴染みの生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひと休みできるように配慮している。	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひと休みできるように配慮している。		